# さんま通信 春

厚生中央病院だより 第68号 2022年

## 新病院長就任あいさつ

病院長　河島　尚志

本年4月1日より、病院長を拝命いたしました河島尚志です。3月までは、新宿にあります東京医科大学に勤務しておりました。経歴を説明いたしますと、昭和56年東京医科大学を卒業、大学院小児科学に入学し、市立根室病院、北里研究所、大月市立中央病院、フィラデルフィア小児病院、大学病院、法人常務理事（兼任）で、入学から考えると46年間東京医大にお世話になり、このたびご縁があり、東京医科大学の派遣病院として関係の深い厚生中央病院にお世話になることになりました。大学での就任以降、月に1～2回厚生中央病院での小児科外来をお手伝いさせていただきましたが、職員や看護婦さんの雰囲気がとても素晴らしく、是非この病院で働きたいと願っておりました。また、私の入局した時の教授は本多輝男名誉教授でしたが、厚生中央病院から教授に赴任されたと聞いており、強い関係を感じています。

さて、医療現場は現在、研修医制度、働きかた改革、医療安全、ガバナンス改革保険制度改革など、多くの変化を余儀なくされています。私自身、自分の専門分野であります小児科の事だけでなく、副院長、医学科長、常務理事、その他周産期センター長、遺伝子診療センター設立などに携わりましたが、こういった変革の時代に、多くの仕事は短期間で成果が出るものはほとんどなく、継続的な努力が必要な仕事でした。これは厚生中央病院での勤務でも一緒と考えています。一つ一つ課題に取り組んでいく所存です。

また、同病院の「心の通った温もりを感じる医療を目指す」、「組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献する」、「病院機能の充実を図り、サービス向上のための研鑽を積む」といった理念は私が目指すところと一致しております。患者様や職員のなかで笑顔を絶やさないことを目標にしたいと思います。今後、厚生中央病院のために鋭意努力し、病院の発展のために全力で尽くしていきたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

目次 contents

新病院長就任あいさつ …… 1
下肢関節治療の最前線 …… 2～3
地域包括ケア病棟とは… …… 4

どうして さんま通信なの？

目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# 下肢関節治療の最前線

整形外科

統括部長　砂川　隆英

下肢関節疾患には様々な病態がありますが、当院で多く診療しているのは、股関節では変形性関節症、大腿骨頭壊死症、大腿骨頚部骨折、大腿骨頭脆弱性骨折、股関節唇損傷、膝関節では変形性関節症、半月板損傷、前十字靭帯損傷、大腿骨壊死などがあります。

## 再生医療

皆様は変形性関節症の再生医療についてどのような印象をお持ちでしょうか？「変形した関節が元に戻る」「骨・軟骨が若返る」と期待される方々が大勢いらっしゃいますが、実際の臨床効果は「痛みが軽減する」ことです。血液成分のうちの血小板の成長因子を含む抗炎症性生理活性蛋白質を抽出し、関節や靭帯などの炎症疼痛部位に投与することにより疼痛が軽減することが分かっております。2018年米国整形外科学会誌に掲載された約19,000例変形性膝関節症の調査では、治療効果順位は、疼痛、機能、疼痛＆機能のいずれの項目もヒアルロン酸に勝るという結果でした。当院では令和3年4月から導入しており、膝関節だけではなく股関節においても良好な治療成績で患者様に満足していただいております。仕事や家庭の事情ですぐには手術を受けることが出来ないが痛みを取りたい患者様、手術に踏み切れない患者様や超高齢で手術が困難な患者様はご相談ください。（注：この治療は日本では保険診療で行うことができませんので全額自費の自由診療です。）

## 関節鏡手術

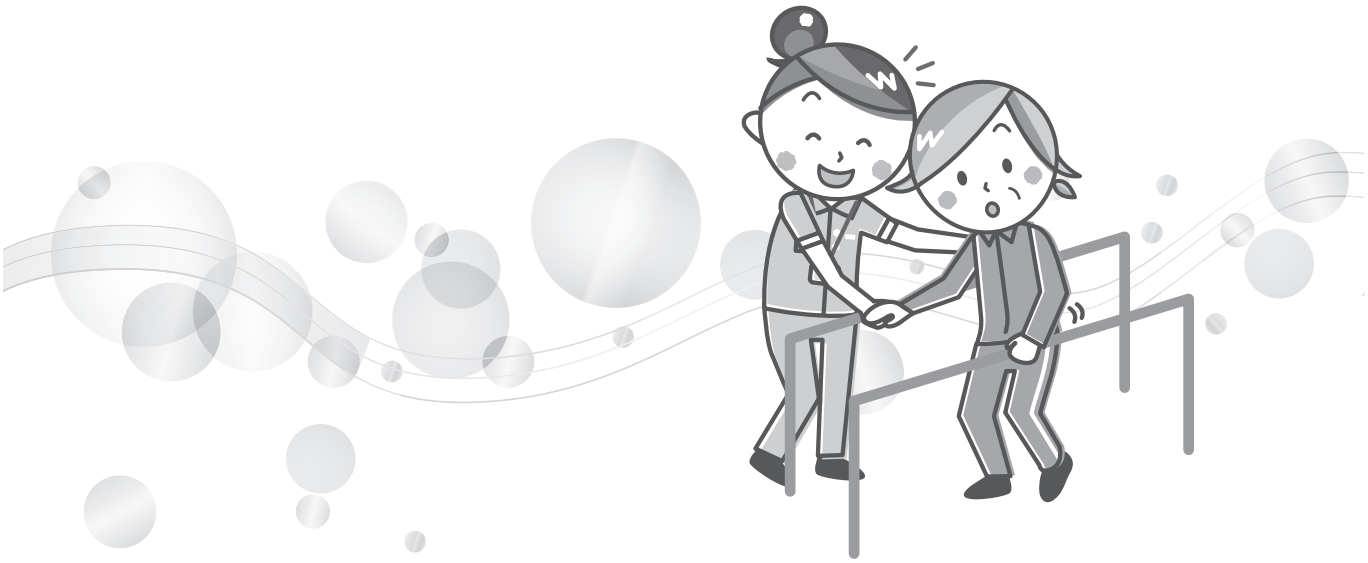
膝関節の半月板損傷や前十字靭帯損傷と股関節の関節滑膜炎、股関節唇損傷などはレントゲン検査では診断することが出来ません。膝関節疾患はMRIにより診断することが出来ますが、股関節唇損傷は、関節内への造影剤注射を行った後の詳細なMRI検査が必要になります。また、これらの疾患は疼痛が少ないと経過観察となることが多く、のちに年齢相当より早く関節変性を来たしてしまうことがあります。関節病状、患者様の年齢や活動状況によっては経過観察よりも手術療法の方がより長く関節を温存出来る場合があります。当院では関節鏡による半月板縫合、前十字靭帯再建、股関節唇形成などを行なっております。

## 人工関節

股関節と膝関節の人工関節置換術は近年飛躍的に手術成績が向上しました。その要因は、①人工股関節置換術における低侵襲手術、②除痛への取り組み、③インプラント品質向上の3つが挙げられます。結果、合併症が減り入院期間が短くなり、患者様や御家族様の心身の負担を減らすことに繋がると考えております。①の低侵襲手術は、手術創の長さよりも関節周囲の筋肉、靭帯を温存することが大切です。当院の人工股関節置換術は、筋間進入で関節まで展開していくため、術後の疼痛が少なく離床が早まり歩行訓練をスムーズに行うことが出来ます。②除痛への取り組みについて、手術開始前の麻酔導入時には麻酔科医による神経ブロックをしております。また周術期は消炎鎮痛薬で除痛が得られない場合は弱オピオイドを使用し、速やかに痛みを軽減させてリハビリテーションを行なっております。③インプラント品質向上について、一世代前、人工関節置換術は70～80歳台の治療法と位置付けられておりましたが、股関節では骨温存が可能な人工関節、膝関節ではセメントを使用しない人工関節が使用できるようになり、人工関節の手術適応年齢は拡大しており50歳台の手術も増えてきております。「まだ手術をしない方がいい」と言われて、疼痛と歩行困難に悩まされている患者様は是非我々にご相談ください。

## まとめ

下肢関節疾患の病態だけではなく、患者様の年齢、生活習慣、希望などを患者様、御家族と話し合って治療を進めております。手術療法は最終手段であり、前段階の運動療法や薬物療法などの保存治療も大切です。我々関節外科医に何事も遠慮なく相談してください。



## 地域包括ケア病棟とは…

地域包括ケアシステムの一部で退院支援を密度高く行い、在宅や介護施設への復帰にむけて医療や支援を行う病棟です。医師や看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーが患者様・ご家族様と協力して、復帰に向けた治療・支援を行わせていただきます。　※入院期間は最長で60日間となります。

## 地域包括ケア病棟の対象となる方

**1** 急性期治療後、病状が安定した患者様で在宅や介護施設への復帰にむけてリハビリが必要な方や療養準備などが必要な方

※基本的には急性期治療が終われば退院となりますが①に該当する方は地域包括ケア病棟へ転棟後、リハビリや療養準備を行っていただき、在宅への退院・施設入所を目指します。

急性期病棟
↓ 病状が安定した状態
地域包括ケア病棟
↓ リハビリや療養準備
在宅への退院 or 施設入所

**2** 在宅療養や施設入所中の方の状態悪化時、集中治療が必要ではない（軽症の状態）の方

※入院時の診断で急性期の治療が必要な場合は急性期病棟で治療後、地域包括ケア病棟へ転棟する場合があります（①のパターン）。

※地域包括ケア病棟入院中に状態が悪化したり、他の疾患で急性期治療が必要になった場合は急性期病棟へ転棟し必要な医療を行います。（入院中に急性期病棟へ転棟した場合、地域包括ケア病棟への再転棟はできません。）

在宅療養・施設入所中
→ 急性期病棟 → 在宅への退院 or 施設入所
→ 地域包括ケア病棟 → 在宅への退院 or 施設入所
急性期病棟 ⇄ 地域包括ケア病棟

**3** レスパイト入院をご希望の方レスパイト入院とは「在宅介護における、介護者のサポートのための入院」です。在宅環境の整備や介護者の休息、冠婚葬祭などの事情により一時的に介護が困難となった場合などにご利用いただけます。

※1回の入院期間は14日間までとなっています。（当院へ入院歴がない方は7日間）

ご自宅
↓
地域包括ケア病棟
↓
ご自宅

診療内容・予約方法などについては➡の連絡先にご連絡下さい。

総合病院 厚生中央病院
地域連携広報室

TEL：03-6863-2890
FAX：03-3713-8021
月～金　9時～17時 ／ 土　9時～14時

総合病院 厚生中央病院　さんま通信　No68　2022
発行元：総合病院 厚生中央病院　地域連携広報室
〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7
TEL：03-3713-2141　FAX：03-3713-8021
E-mail:renkeisitu@kohseichuo.jp
URL http://www.kohseichuo.jp

＊＊＊看護師等、随時募集しております。詳しくは当院ホームページをご覧下さい。＊＊＊